

ごあいさつ

沖縄県バレーボール協会
会長 大兼 康弘

第74回 全日本バレーボール高等学校選手権大会 沖縄県代表決定戦の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

今大会は、沖縄県バレーボール協会、産経新聞社・サンケイスポーツ、沖縄テレビ放送株式会社の主催のもと、沖縄県高等学校体育連盟の共催を頂き開催される大会であり、ご協力頂いています関係各位に、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大により、中止を余儀なくされる大会等がある中、本大会が開催されることを心から喜んでいます。

さて、本大会は、3年生が参加できる最後の大会となっていることから、1年生から3年生までが選手エントリーし、総力戦で全国大会へのキップを手にしたと取り組むチーム、また、新チームでのぞまれるチームもあると思います。

各チームとも一丸となって「絆」を大切に大会にのぞみ、てっぺんを目指して頂きたいと思います。頑張ってください。

とは言っても、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言下において、各チームとも十分な練習時間が確保できない状況下での大会参加となります。

指導者におかれましては、「練習ができる」、「大会が開催される」、「大会に参加できる」といった「感謝」の気持ち「喜び」を十分にかみしめながら、試合にのぞんでいくことを選手の皆さんに伝えて頂きたいと思います。

現在は、新型コロナウイルス感染者数が減少傾向にあることから、緊急事態宣言が解除されていますが、まだ、予断が許される状況ではないと思います。

各チームとも、十分な健康管理を行い、ベストの状態に臨んで頂きたいと思います。

最後になりますが、大会を開催するにあたりご尽力頂いています関係各位、それから、感染対策等の対応に取り組まれている高体連関係者の皆様に心より感謝申し上げ、私の挨拶とします。

各チームとも、全国大会出場を目指し、頑張ってください。

令和3年10月8日

ごあいさつ

産経新聞社 那覇支局
支局長 川瀬 弘 至

皆さまこんにちは。産経新聞の川瀬弘至と申します。僭越ではありますが、本日の開会式にあたり、産経新聞およびサンケイスポーツの本社社長に代わりまして、ひとことご挨拶を申し上げます。

まずは、本大会の開催にご尽力いただきました、沖縄県バレーボール協会、沖縄県高等学校体育連盟、沖縄テレビ放送はじめ関係者の皆さまに、深い敬意と感謝を表したいと思います。

振り返れば昨年同様、新型コロナウイルスとの、厳しい戦いが続いた1年でした。とくに本県は深刻な感染拡大に見舞われ、5月23日から9月30日まで、緊急事態宣言が全国最長の4カ月以上に及びました。

この間、本日お集まりいただいた現場の皆様、各校で指導に努められている皆様は、大変なご苦勞をされたと思います。練習量をどう確保するか、何より子供たちのモチベーションをいかに維持していくか、さまざまな試行錯誤があったことでしょう。

しかし皆様のご努力により、今年も、子供たちに大きな夢舞台を提供できることになりました。本当にありがとうございます。

言うまでもなく、各校のバレーボール部員、とくに3年生にとっては、本大会が高校クラブ活動の総決算となります。

どのような結果であれ、本大会が子供たちの一生の思い出となり、その後の人生に役立つことは、疑いありません。

私自身、高校時代はバレーボール部に所属し、嬉し涙も悔し涙も、たっぷり流しましたから、よくわかります。

新聞記者になって、苦しい時もつらい時もありますが、いままで頑張ることができたのは、やはり高校時代のバレーボール部で、厳しい練習に耐えてきたからだと思っています。

私は昨年、本県代表決定戦の準決勝と決勝を観戦させていただきました。

そして、その白熱したプレーに、本当に胸が熱くなりました。高校時代を思い出し、勇気をもたらったような気分でした。

今年も、決勝戦を観戦させていただきたく、いまからワクワクしています。

より白熱した、感動的な試合が繰り広げられることを心から期待し、私のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。